

「歴史的資産活用推進事業」調査の概要

【H27 年度調査概要】

- 「建造物」「歴史資料」「土木構造物」について、調査の対象範囲など、調査全体の枠組みを整理
- 「建造物」について、調査手法、記録管理方法、調査スケジュール、価値評価の視点・基準を整理し、文献資料に基づき所在調査を実施した。
- 建築時期により「歴史的地域資産」と「将来資産」に分け、リスト化

歴史的地域資産：建築物や工作物のうち築後 50 年以上で、歴史的価値があるもの

将来資産：建築物や工作物のうち建築後 50 年未満で、時間の経過と共に今後価値が高まっていくもの

【H28 年度調査概要】

< 建造物 >

- H27 年度に作成したリストの中から調査対象候補として歴史的地域資産約 280 棟、将来資産約 40 棟を抽出。（文化財指定等がなされているものは一定の価値評価済みとして対象から除外）

- 現況調査実施：歴史的地域資産 119 棟、将来資産 12 棟 ⇒調査個票あり

< 土木構造物 >

- 文献や札幌市ホームページ等の情報を基に所在をリスト化。（橋梁約 120 件、トンネル 22 件、ダム 4 件）

- 現況調査の手法について検討

< 歴史資料 >

- 市内の郷土資料館（13 館）を対象として所在地や収蔵リストの概要をまとめ、各資料館の独自のものや、民具等資料館に共通するキーワードを抽出した。また、資料のデジタル化等、今後の方向性や課題を検討した。

※調査はNPO法人歴史的資産研究機構（れきけん）に委託して実施（H27, 28）

【H29 年度調査概要（予定）】

- 土木構造物のうち、橋梁、トンネル、ダムについての現地調査を中心に、歴史資料や建造物についての補足調査を行う。

【歴史的資産関連イメージ】

